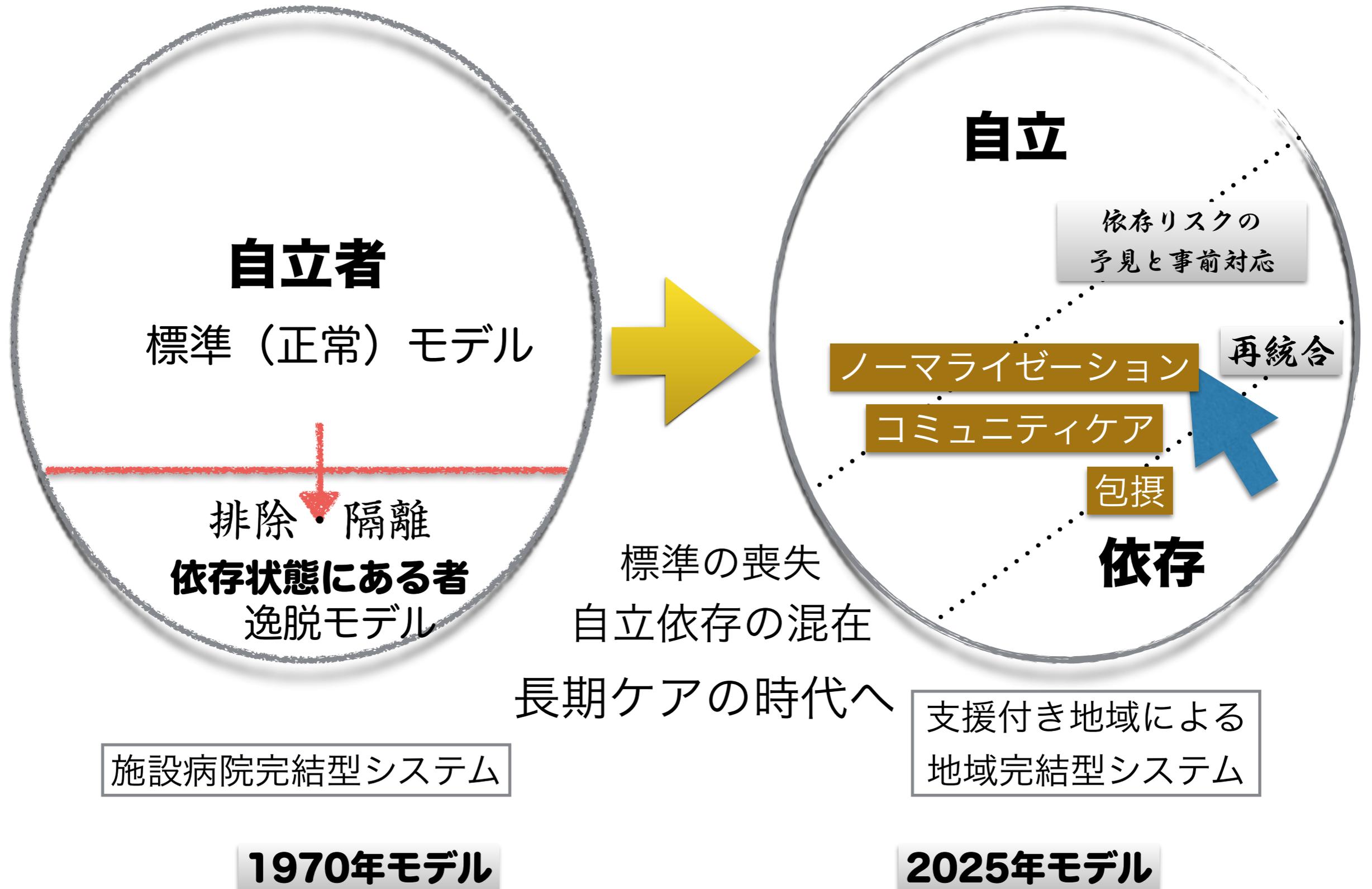


東京都の地域包括ケア 様々な他県の先進事例からの 示唆も含めて

150708東京都において

高橋紘士

依存状態のマネジメントモデルの転換



地域のcommonsとしてのケア拠点 こぶし園モデル

大都市に相応しいモデルの筈だがなぜ東京にできないのか
世代交流型と地域の拠点機能を高齢者ケア付きすまい機能と合築
施設機能の地域支援機能の強化モデル
サポートセンターを分散配置すると防災拠点機能にもなる
拠点型サ高住、多機能型地域支援型施設など

サテライトNo3

サポートセンター摂田屋

特別養護老人ホーム 20名

認知症グループホーム 9名

小規模多機能型居宅介護事業
登録定員25名通い15名宿泊6名

配食サービス

カフェテラス・キッズルーム

バリアフリー住宅

土地・建物は民間所有

サポートセンター 摂田屋

摂田屋地区に介護保険サービスだけでなく地域の皆様からもご利用いただける複合型サービスを新たに開設致しました。より自宅から近い所での生活の維持や住み替えによって、家族や地域住民との馴染みの関係を維持して生活していただきたいという考えをコンセプトにしたサービスセンターです。



サービスメニュー Service Menu

■地域密着型小規模老人福祉施設 サテライト型特別養護老人ホーム摂田屋(定員20名)

要介護認定を受けられた方で、自宅での介護が困難な摂田屋近辺の方が、住み替えることによって地域での生活を継続することができるためのサービスです。(最初の20名は、こぶし園からの移動です。)

■小規模多機能型居宅介護摂田屋 (登録人数25名 通い15名 泊り6名)

「通い」、「泊まり」、「訪問」を組み合わせたサービスです。全てのサービスを認定スタッフが提供させていただきますので、馴染みの安心したサービスを提供できます。料金についても1ヶ月定額ですので、必要なサービスを必要な時にしっかりと利用することができます。

■カフェテラス・キッズルーム

【カフェテラス】

高齢者の皆様を中心に、地域内の皆様が気軽に集うスペースとして設定しましたので活用ください。

【キッズルーム】

共働き世帯が増加している中で、就学後の児童の遊び場として開放するスペースで、カフェテラスを利用される地域の皆様やサポートセンターを利用される高齢者の皆様との世代交流のスペースとして活用ください。

平面図 Floor Map



※各室僅々に玄関とベランダがあり、プライバシーに配慮しています。



【1階】



【2階】



■認知症対応型共同生活介護(定員9名)【1階】

認知症になってもできる限り住み慣れた地域で暮らしたいという希望を叶えるため、明るく家庭的な環境を重視することや家族や地域との結びつきを大切にするなど、その人の意思を尊重し、その人らしい暮らしを支援して参ります。

また、福祉先進国のスウェーデンで生まれたこのシステムを日本に定着させるために日々の暮らしをベースに支援を行います。



■在宅支援型住宅(10室)【2階】

TAKADA

在宅支援型住宅ではバリアフリー環境(車イス対応)の居住を提供、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)が1階部分に併設されております。

また、小規模多機能型居宅介護事業所が隣接しており、住み慣れた地域での皆様の生活をサポート致します。

利用できる方は、要介護高齢者・虚弱高齢者です。

■お問い合わせ 見学・ご相談には随時、対応致しております。お気軽にお問い合わせください。



〒940-1105 新潟県長岡市摂田屋5丁目9番73

サポートセンター 摂田屋

TEL 0258-39-1510 FAX 0258-39-1512

〒940-2135 新潟県長岡市原町1 2778-4
社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園
TEL 0258-40-0010 FAX 0258-40-0010
URL: <http://www.kobushien.com> E-mail: info@kobushien.com





民家活用型ケア拠点

ホームホスピスの場合

東京ではすでに小平市にホームホスピス武蔵野がマンションを

活用したホームホスピス第一号がオープン

「とも暮らしモデル」

「かあさんの家」には、 生活の音と匂いがある。

暮らしと『いのち』を最期まで支えるために

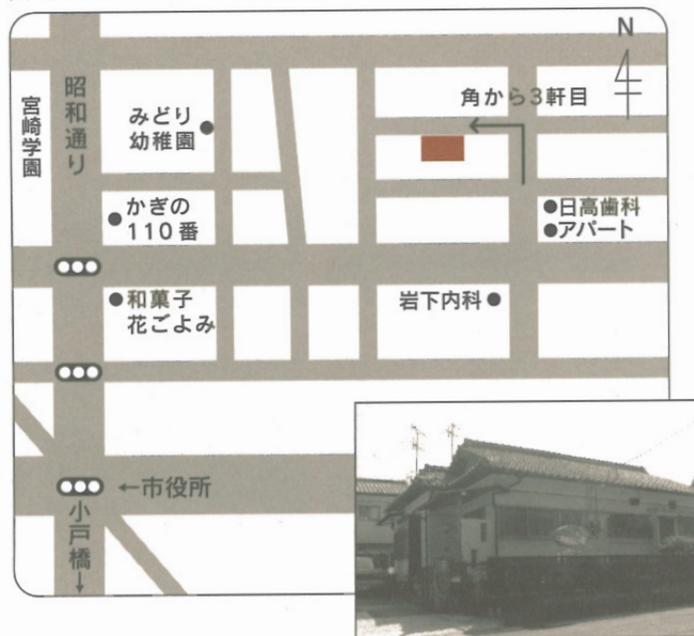
住み慣れた地域で、なじみの人たちに囲まれて《その人らしく》人生を全うすることを望む方々の、施設でもない自宅でもないもうひとつの『居場所』。生活することそのものが、生きるあかしであり、リハビリにつながると考えます。

さまざまな職種の専門家と連携しながら

家庭的な雰囲気の中で安心して生活できるように、ヘルパーが365日、24時間常駐します。末期がんの患者さんや、認知症や寝たきりの方々の、一人ひとりの身体状況に合わせて、往診（在宅療養支援診療所）や訪問看護などの医療機関と連携して、望めば最期まで過ごすことができます。介護保険のサービスは、その方にとって必要なことを必要なだけケアマネージャーと連携して利用します。その他さまざまな職種の専門家やボランティアがチームを組み、地域の方々の協力も得ながら支援していきます。

かあさんの家・曾師

宮崎市曾師町58番地 TEL&FAX 0985-60-7732



「かあさんの家」には、穏やかな毎日がある。

どんな人が利用しているの？

介護者がいない、いても体力がない、また昼間は家族が仕事などで在宅介護が困難な方、一人では病状の変化などが不安な方

介護する家族の休息のために、また不祝儀などの急な用事で留守をする場合など、一時的に短期間の入居（ショートステイ）などの利用

重度の認知症のために施設になかなか適応できない方や、医療の適切な支援が常時必要とされ、家族だけでは不安で在宅介護が困難と考えていらっしゃる方

一人暮らしで食事の準備ができない、また、一人だけの食事が寂しいという方の、食事だけのご利用もできます

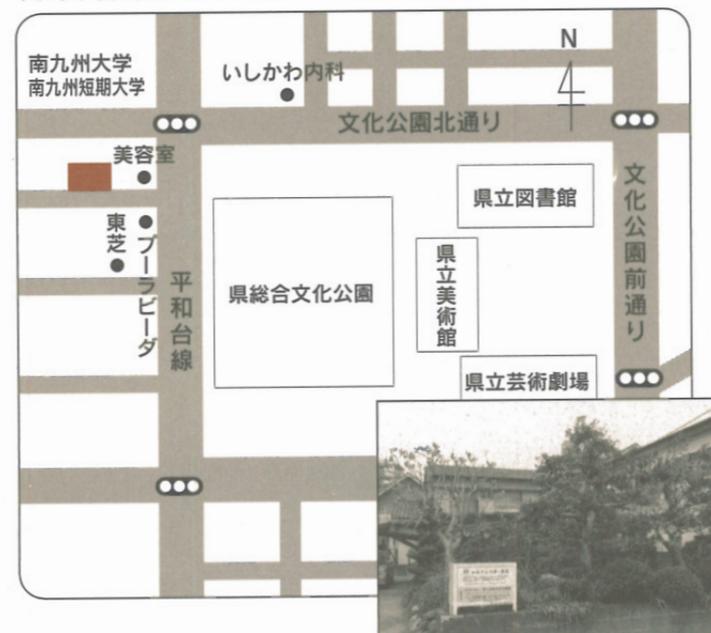
ここには、ナースコールはありません。気配で分かる空間です。そして、食事をつくる台所のコトコトという音や匂いが漂う、日常の生活があります。

最期は家で看取りたい、畳の上で死にたいと願っているが、家族が遠方だったり、仕事の都合だったりなどで、在宅で過ごすことの望みはかなわないと思っている方

夜が心細い、不安という方が、夕食や風呂をご一緒し、泊まって帰るナイトケアとしての利用

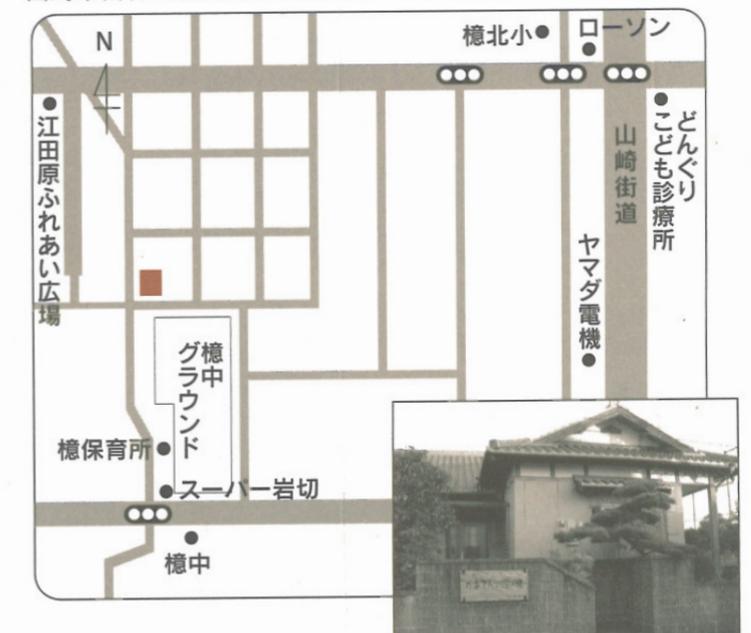
かあさんの家・霧島

宮崎市霧島町4丁目123 TEL&FAX 0985-29-6725



かあさんの家・憶

宮崎市吉村町江田原甲218-23 TEL&FAX 0985-28-8388



家の様子

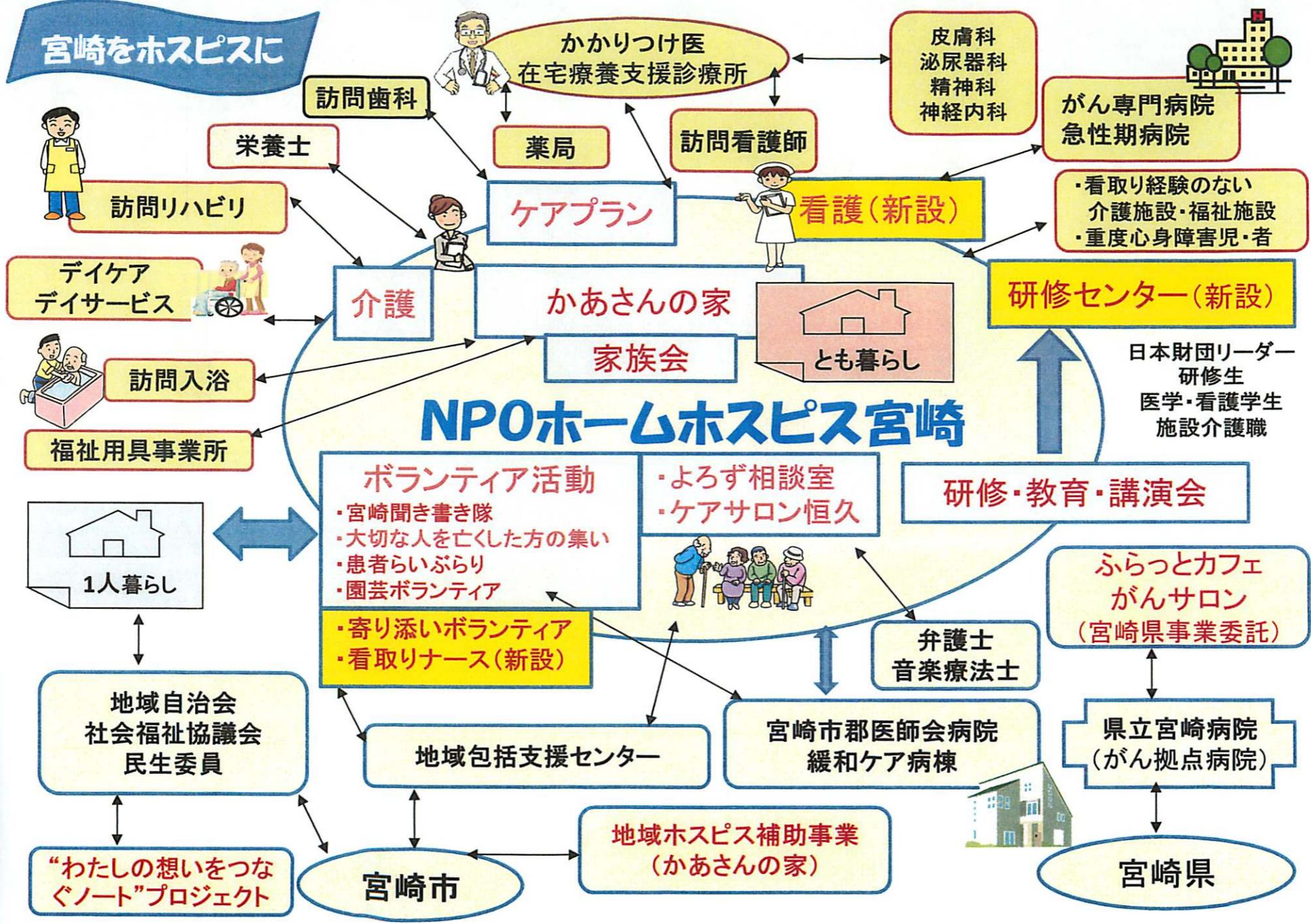
日本財団『夢の貯金箱から寄付を受け古民家を改修しました。



国道から入り込んだ閑静な住宅街に、古民家の良さを活かした『たんがくの家』があります。敷地内には果樹が実り、季節によって旬の果物が迎えます。

昔から日本に伝わる天然素材の弁柄（べんがら）や柿渋を使った建具を用い、気配を感じる事が出来るように障子や源氏ふすまを用いています。壁は土壁に天然素材のシラスを塗りました。部屋には、天井に大きな梁が剥き出しになり、まるで幼少の頃過ごした家や懐かしいおばちゃんの家を思いだす事でしょう。

宮崎をホスピスに



様々な空き家等を活用した
居場所の意義

孤立化防止

助け合いと専門職支援の融合
都内でも様々な実践例が展開
施設・住居二分法の克服

～誰でも気軽に立ち寄れる どんな相談もできる～

まちカフェふるさと OPEN!

木のぬくもりに囲まれたカフェで、
おいしいコーヒーを飲みに来ませんか？



コーヒーサービス無料!

どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

(独)福祉医療機構より補助金を受けて運営しています)



営業時間：11:00～15:00

営業日：月・火・木・金(祝日は除く)

住所：新宿区大久保1-10-22平田ビル1F

(JR山手線・新大久保駅、都営大江戸線・東新宿駅から徒歩10分)

TEL：03-6205-5528 FAX：03-6205-5529

E-Mail：info-machicafe@hurusatonokai.jp

暮らしの保健室7月1日オープン



メインルームにはテーブルを配置予定

